

推奨順	成分名	規格 (mg)	薬価 (円)	用法・用量 (日)	投与経路 投与回数	上段:1日量(mg) [下段:5日間薬価(円)]				臨床成績・その他注意		
1	オセルタミビル	75	114.4	1回 75mg 1日 2回	内服 5日間 10回			150 [1144]		<ul style="list-style-type: none"> ・有効性 <症状緩和時間> オセルタミビル、ザナミビル及びペラミビルについてはそれぞれプラセボと比較し有意差あり。ラニナミビルとオセルタミビルについては有意差なし。小児についてもオセルタミビル群とザナミビル群ではそれぞれプラセボ群より症状緩和時間を短縮している。 		
2	ザナミビル	5	132.9	1回 10mg 1日 2回	吸入 5日間 10回			20 [2658]		<ul style="list-style-type: none"> ・安全性 <重大な副作用> オセルタミビルとザナミビル、およびペラミビルで多く認められている。(気管支炎、インフルエンザ急性増悪、肺炎など) <呼吸器・異常行動> 薬剤間による差異は見られなかった。 		
2	ラニナミビル	20	吸入粉末	1回 40mg	吸入 単回			20	40		<ul style="list-style-type: none"> ・同等量設定 インフルエンザ治療中の薬剤切り替えは一般的ではないため設定していない。 	
			2179.5					[2179.5]	[4359]			
		160	吸入懸濁用	1回 160mg					160			
			4241.5					[4241.5]				
4	バロキサビル	10	1535.4	1回 40mg	内服 単回			10	20	40	80	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位 他の薬剤との非劣性が示され、最も治療費が抑えられるオセルタミビルを第一推奨とする。ただし、患者の病態に応じて吸入薬剤、注射薬剤の選択を考慮する。
		20	2438.8					[1535.4]	[2438.8]	[4877.6]	[9755.2]	
5	ペラミビル	150	3400.0	1回 300mg	経静脈 単回				300			<ul style="list-style-type: none"> <今後の検討事案> ・治療継続率、薬剤耐性情報について ・医療者による服薬支援がある場合は医療者のインフルエンザ暴露のリスク
		300	6331.0					[6331]				

2020年8月 初版、2022年5月改定第3版(2022年4月薬価)

